武雄高校だより

令和4年 3月 9日発行　第224号
発行者　佐賀県立武雄高等学校
TEL ： 0954-22-3103
FAX ： 0954-20-1010
URL ： https://www.education.saga.jp/hp/takeokoukou

●武雄の魅力再発見シンポジウム●

2 月 24 日(木)に、「実はすごいぞ武雄の歴史！！」というタイトルのもと武雄の魅力を再発見するシンポジウムが行われ、本校の 2 年生代表 15 名が 4 班に分かれてプレゼンテーションを行いました。あまり知られていない武雄の偉人に想いを馳せながら、武雄のよさについて考えるいい時間になったのではないかと思います。

●　武雄高等学校　第１３回　卒業証書授与式　●

３月１日（火）に第１３回卒業証書授与式が行われ、３年生２２９名が卒業しました。昨年同様、短縮された中での式ではありましたが、厳粛な雰囲気の中にも温かみのある、思い出に残る素晴らしいものになったことと思います。今年度は様々な困難や壁が生徒たちの前に立ちふさがりましたが、その度にそれを乗り越えようとする 3 年生の姿はとても印象的でした。
その姿は確実に、明るい未来を期待させるものであったと思いますし、在校生にも深く刻まれていると思います。また、式典後の最後の HR では、3 年間の思い出を語った人、将来への展望を熱く語った人、仲間への感謝の気持ちを述べた人など様々でしたが、各クラス最後の時間をいい形で共有できていたのではないかと思います。この 3 年間で培った力を元に、未来へと羽ばたいていってくれることを期待します。以下に、卒業生代表として答辞を述べた鈴山愛玲さんの言葉が載っていますので、ご覧ください。

答辞

冬の寒さも緩み、武高坂の桜の蕾も膨らみ始め、一雨ごとに春の訪れを感じさせる、今日のよき日に、私たちは卒業の日を迎えました。県内では、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、蔓延防止重点措置の適用が続く中、私たちのために、このように盛大な式典を挙行してくださった関係者の皆様、また、足元の悪い中ご臨席いただいた皆様、卒業生一同心よりお礼申し上げます。

三年前、まさにこの体育館で入学式にのぞんで、はや3年の月日が流れ、この武雄高校に来ていなければ、互いに知る機会もなかった、たくさんの素晴らしい人たちとの出会いがありました。学校生活では、楽しいことも、つらいこともありました。挑戦して、成功したことも、失敗に終わったこともありました。
今改めて振り返ると、ここで過ごした日々が、懐かしく思い起こされます。昼休みの教室、仲の良い友人たちと、ただ楽しかったことだけを覚えているような、とりとめのない会話。たまたまマスクをはずした級友の横顔が、いつの間にか大人っぽい顔つきになっていて、驚いたこと。部活終わりの帰り道、友達と歩きながら、しばらく見入ったあかね色に染まった夕焼け空。休み時間、ふと窓の外に目をやると、御船山に続く木々の、鮮やかな緑と、透き通った青空。放課後補習が終わって教室を出ると、冬の陽は落ちて、真っ暗なグラウンドの向こうに見える、温泉街の灯り。武陵祭では、白いグラウンドの上を、太鼓のリズムとともに、リーダーたちの色鮮やかな法被がひるがえる、躍動感のある演舞。文化会館のステージ発表では、趣向を凝らした揃いのクラスTシャツに、息の合ったダンスと、はじける笑顔。この学校で過ごした、一日一日のすべてが、大切な思い出です。特に、武陵祭では、コロナ感染症、第５波の厳しい時期に重なって開催が危ぶまれた中、私たち生徒のために、フルバージョンで開催していただきまして、本当に、ありがとうございました。

勉強では、一年生の頃は、自分に合った勉強方法が確立できずに、試行錯誤の連続でした。また、コロナの影響で突然休校となり、スタートが遅れた数学や化学の

授業は進度が速く、ついていくのが大変でした。しかし、先生方に頂いたアドバイスを実践し、効率的な学習を追求する中で、だんだん自分に合うペースが掴めてきました。３年生になっての受験勉強では、不安と闘いながら、一日何時間もの勉強を、諦めずに、粘り強く取り組むことができました。

いろいろな思い出があるなかで、私にとって特に忘れられないのは、少林寺拳法部で、仲間とともに汗を流した日々です。一つ上の先輩方が、コロナで大会が中止になり、無念の思いのまま引退され、私たちは新チームになって、先輩方の悔しさを胸に、秋からの選抜大会に臨みました。九州選抜大会で総合優勝を勝ち取り、その勢いで全国選抜大会に臨み、団体種目では、創部以来、男女を通じて初の５位入賞を遂げることができました。しかし、私たちは、そこに満足しませんでした。みんなが更なる高みを目指して気持ちを新たにしました。選抜大会から戻って最初の練習の日、すぐに大会の課題を洗い出し、修正方法を検討し、夏の全国高校総体で、優勝を争うレベルまで、団体メンバー６人、一人一人の技術を高めることを目標に、次の一歩を踏み出しました。しかし、それは険しい山に立ち向かうことでもありました。ここに至るまでも、そのあとも、道のりは苦難の連続でした。６人の動きがなかなか一つにならずに、意見が衝突して、私は主将として、どうまとめていいかわからないこともありました。疲労が蓄積して体は思うように動かず、気力が続かなくなり、目標を見失うこともありました。他の３年生は受験勉強に入っているのに、補習も出ずに部活をしていることで、勉強の遅れも気になりました。土日も練習で、午前の補習が終わってすぐに車で福岡に行き、福岡の先生に指導を受けて、夜に帰ったこともありました。いつも自分を極限まで追い込む練習をしていた佐藤の体調に異変が現れました。手足が震え、練習でも膝から崩れ落ちることが続きました。症状は数か月も続きましたが、佐藤は、一切手を抜かず、倒れても、倒れても、立ちあがって、練習を続けました。佐藤の気迫に、私たちは引っ張られるようにして、練習に熱が入っていきました。宮原は、ちょっとしたミスから左手の指を骨折しましたが、弱音を吐かず、ギブスで固定したまま練習を続けました。平川は、苦手な飛び受け身を克服するために、来る日も来る日もマットに体をたたきつけて練習しました。古賀は、全体練習が終わった後も道場に残って、自主トレーニングを一日も欠かしませんでした。溝口は、体を痛めても、練習がきつくても、いつも前向きな笑顔でみんなを励ましました。私たちは、自分に負けるようでは、人に勝てるはずがないという気持ちで、修正すべき課題を見つけては意見を出し合って、改善できるまで、繰り返し、繰り返し練習しました。何度も、心が折れそうになりましたが、私たちが、どんなにつらくても、頑張っていけたのは、このチームなら、最後の全国総体で、最高の成果を上げられると信じていたからです。大会の前日、古賀が、みんなに手作りの赤い達磨のお守りを渡してくれて、私たちは、それを手に、今までの練習の辛さを、自信に変えて、最後まで全力を出し切ろうと誓い合いました。どんな時も互いに、支え、支えられてこまで来ることができたと、６人の心が一つになった瞬間でした。そして、８月１日、長野県佐久市での全国総体の最終日。団体競技の前にあった男女の組演武では、女子は、佐藤・古賀組が、男子は、これまで何度も私たちを励ましてくれた高野・福田組が、気迫に溢れる最高の演武で、予選から大逆転を果たし、それぞれ５位と６位に入賞し、私たちも勇気をもらいました。そして、最後の種目、予選を勝ち上がった１２校で争う団体演武の決勝ラウンド、いよいよ私たちの順番が来ました。コートわきに立ち、「武雄高校」とコールされ、コートに入ってから、６人の呼吸は一つになり、動きに狂いはなく、今までで、最高の演武をすることができたと思います。結果は、得点２５７．５点で、順位は7位と、入賞には０．５点届かず、私たちの挑戦は終わりました。しかし、私には、悔しさはありませんでした。６人が出会い、３年間、励まし合いながら必死に走り続けたこと、気持ちが一つになり、最後まで諦めず全力を尽くしたことに、これまでに経験したことのない達成感を感じることができました。大会が終わり、私たちはすぐに気持ちを勉強に切り替え、それぞれの目標を目指して、新たな道を歩み出しました。大会前に、体の変調や怪我に苦しんだ佐藤と宮原は医学科に進みます。私は、地域に住む人の心の支えとなれるような保健師となるために、保健学科に進みます。ほかのメンバーも自分で決めた目標に向かって、部活動で培った強い気持ちで、前に進んでいきます。

私は、自分が経験したことを話しましたが、他の部の人たちも、私たちと同じように、運動部、文化部とそれぞれの部活動で、かけがえのない仲間と出会い、武雄高校の一員として、誇りをもって、一心に努力して、何ものにも代えられない貴重な経験をしたことと思います。私たち３年生は、この武雄高校で、授業に、部活動に、生徒会に、いろいろなことに対して、ひたむきな気持ちで、懸命に取り組んで、その分、大きく成長することができました。

さて、世界を見渡すと、ロシアによるウクライナ侵略、未だに収束の兆しの見えないコロナウイルス感染症や、グローバルな環境問題、格差の深刻化など、たくさんの問題を抱えています。しかし、私たちは、この学校で、自分たちで課題を見つけ、解決法を考え、仲間と協力して、困難を克服する経験をしてきました。この経験を活かし、これから進むそれぞれの分野で、たとえ大きな試練に直面しても、決して諦めず、失敗しても立ち上がり、必ず乗り越えて、私たちの住む世界が、より良いものとなるように、全力を尽くしてまいります。先生方、私たちがこのように成長し、卒業の日を迎えることができたのは先生方のお蔭です。毎日の授業や進路相談など、いつも私たちを支え、見守ってくださいました。私たちが困っていたり、悩みを抱えていたりしたときは、親身になって相談に乗ってくださり、いただいた多くのアドバイスのおかげで、一歩一歩成長することができました。三年生になり進路を決めていく中で、先生方は、一人一人の自主性や夢を尊重してくださり、朝早くから夜遅く、そして休日まで進路相談にのってくださいました。先生方に全力でサポートしていただいたおかげで、学力面に加え、精神面でも確実に成長することができました。三年間、本当にありがとうございました。

また、先ほどは心のこもった送辞をありがとうございました。今日は、後輩たちに直接語ることはできませんが、皆さんと過ごした日々も、私たちにとっては、かけがえのない思い出です。三年間は本当にあっという間です。勉強や部活動はもちろんですが、友人と過ごす時間も、大切にしてほしいと思います。文武両道で何事にも全力で取り組み、これからもたくさんの方に応援していただけるような、武雄高校生であってほしいと思います。そして、最後に、両親にこの場を借りてお礼を言わせてください。毎日朝早くからお弁当を作り、遠い距離を、回り道をして登下校の送迎をし、大会があるときはいつも応援に駆けつけてくれました。進路を決めるにあたり、意見がぶつかったこともありましたが、それでも最後は、やりたいことをやりなさいと、私の意志を尊重し、背中を押してくれたことには本当に感謝しています。どんな時も私たちを励まし、寄り添い、不安を和らげてくれる、その温かさが、私たちを三年間支えてくれました。本当に、ありがとうございました。

これから私たちは、それぞれの未来に向かい、一歩一歩、自分の足で歩んでいきます。この武雄高校で学んだことの誇りを胸に、力強く生きてゆきます。これまで私たちを支えてくださったすべての方々に、改めて御礼申し上げるとともに、武雄高校の更なる発展を心より祈念して、答辞といたします。

令和四年三月一日

卒業生総代　鈴山愛玲